

# 予算等審査 特別委員会



予算等審査特別委員会（議長を除く16人の議員で構成、委員長佐々木恵美子議員、副委員長昆明美議員）は、予算15件、条例12件、その他5件について付託を受け、審査を行いました。

今委員会では、今後の施策全般にわたり活発な質疑を交わしました。その結果、全議案を原案のとおり可決しました。

## 個人情報提供なし 敬老会の開催は

**問** 個人情報保護法の改正に伴い、令和5年度から個人情報提供できる範囲が厳格化される。各地区センターに個人情報提供できないとのことだが、今後の敬老会の開催方法は。

**答** 高齢者の名簿の提供はできないので、小さな拠点を中心として、名簿づくり、手挙げ方式等知恵を出し合いながら対応していただきたい。

**問** 敬老会は、次世代交流、元氣確認、生きがいにつながると思うが市としての考えは。

**答** これまでの地域、各町での敬老会は、その地域独自で、特色ある工夫を重ねて開催してきた。

開催にあたっての困りごと、問題等に対し、相談や支援を行っていく。

## これから農業を 始める人を応援

**問** 新規就農を増やすための取り組みは。

商社への一元化を進めて観光振興をはかっている。

## 増える市税 東工業団地の影響は

**問** 市税が増額になっている根拠は。

**答** 給与所得が令和4年度回復してきており、さらに令和5年度はより一層所得が増え、税収が回復すると見込んでいる。

**問** 東工業団地に会社が集積することにより市税、法人税、固定資産税の増額が見込まれるか。

**答** 東工業団地に集積が進むと償却資産の投資も増えると思われる。さらに従業員が市内居住者であれば所得割も伸びていくと推測している。

**問** 遠野市内の既存事業所の法人税に対する見込みをどのように捉えるか。

**答** コロナ以前に近い伸びになると考えている。

**問** 遠野ならではの魅力としてホップ・ワサビがあり、集中的にPRしながら進めていきたい。

令和5年度の新規就農に向けて、稲作や肉用牛、露地野菜に取り組みたいという相談を受けており確実に支援したい。

**問** 新規就農へのアドバイス体制は。

**答** 市、農協、県の普及センターと相談して取り組んでいる。経営



遠野の美味しい根わさび

## 情報技術で 便利な生活に

**問** 住民票の写しなど、コンビニ交付サービスが導入されるが、地区センターにも導入しては。

**答** 専用の端末が必要であり、多額の費用が必要になる。効率性、合理性、安全性などを考慮し、よりよい方向を考えていく。

**問** 購入するドローンの活用は。

**答** 空撮ドローン1機を購入する。また操作できる職員を3名育成し、防災面等で活用したい。

**問** 一人暮らしの高齢者など、マイナンバーカードの申請に行けない方への対応を。

**答** 市役所等での受付、地区センターや新設型コロナウイルスワークセンター接合場での出張申請サポートに取り組んできた。

発展支援として、機械や牛の導入経費について支援ができる制度もある。いろいろな角度からサポートして、新規就農の支援をしていきたい。

## 国保税 引き上げ、なぜ

**問** なぜこの時期の引き上げか。軽減策はなかったか。

**答** 国保税は3年に一

り組んでいかなければならない。

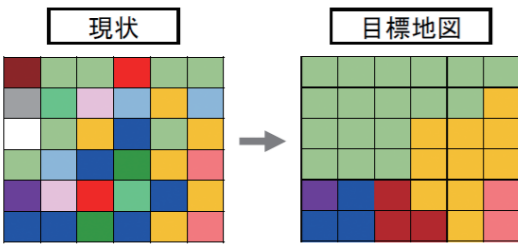
## 農地問題を解決する 「未来の設計図」

**問** これまでの※1地域農業マスタープランとの違いは何か。

**答** これまで※2実質化されてきた本市の地域農業マスタープランに対し、令和5年度から令和6年度末までに具体的※3目標地図を作成することが法律で定められたことに併せて中心経営体を位置付けすることになる。

**問** 目標地図を作るために。

**答** 一人暮らしの高齢者など、マイナンバーカードの申請に行けない方への対応を。



農林水産省経営局 資料より

度の見直しを行っているが、今までコロナ禍の経済停滞でこれを見送ってきた。しかしこのままでは運営資金が令和6年度に枯渇してしまうという状況にあることから今回やむなく値上げに踏み切ったもの。

**消防団  
年額報酬アップ**  
**問** 消防団報酬額の改正理由とその内容は。

**答** 災害が多発化・激甚化する昨今、消防団の役割も多様化している。消防団員数の減少により、消防団員一人一人の負担が大き。総務省消防庁通達に合わせ、消防団員の処遇



ポンプ操法訓練をする消防団

## 期待される ふるさと納税

**問** ふるさと納税は年々増加しているが、返礼品は物だけでなく他に遠野の魅力を発信できるものがあるか。

**答** 返礼品は「物消費」だけでなく、観光体験などの「コト消費」をもっと増やしていきたい。

**問** 今後の増収対策はどういうものか。

**答** 既存の返礼品をブラッシュアップするような特産品化の伴走型支援を進め、また遠野の取り組みを伝え、リピーターの確保を図りたい。

**安心して子育てできる医療体制に向けて**  
**問** 新規事業「安心子育て・ママの里推進事